

地域教育懇話会で挙げた主なご意見等

【学校規模・学校配置の適正化】

- ・親に安心して子供が活動できると思ってもらえるような発想の転換が必要。沼津に来たい、住みたいなど活性化につなげ、市として少子化対策に取り組むべきではないか。
- ・令和 10 年度の子供の数を考えると、統合しなければならない学校もあると思うが、市内の学校数をどのようにしていくかという計画が必要。
- ・子供をもつ親の意見を聞いて進めてほしい。地域の意見も聞き、学校を残すのであれば、コミュニティ・スクールが大きな力を発揮するようにしなければならない。
- ・ICT を活用し、学校間をつないで授業をすることもできると思う。
- ・子供たちの教育も大事だが、保護者だけでなく同じようにコミュニティも大事に考えてほしい。
- ・地域の風習や特性がある中、統合することに矛盾を感じる。地域との関係性を検証していく必要がある。
- ・市を越えた統合も検討してほしい。
- ・具体的な校区での検討が複数年に及ぶなら、構成員は固定してもらいたい。
- ・小中一貫学校の研究成果について、周知してもらいたい。
- ・先生方の負担を具体的に示してもらいたい。
- ・通学区域の仕組は見直していく必要がある。
- ・高校教育につながるような仕組みを考えてほしい。中学から高校につなげていくことで、沼津がよりよくなっていくため、県教委と連携してほしい。
- ・統合する際、通学手段としてスクールバスの導入を考える必要もあるのではないか。

【コミュニティ・スクール (CS)】

- ・子供会や PTA が崩壊している。隣接校選択制度について、メリット・デメリットを示して丁寧に説明をし、住民の声を聞いてほしい。
- ・制度の仕組みがよく分からない。制度の必要性や先行事例についても説明してもらいたい。
- ・学校には防災用品と学校備品があり、市では対応する課が異なるため取り扱いが煩雑である。CS の導入で窓口を一本化したらどうか。
- ・地域人材に不足が生じており、現状の自治会組織では学校からの要望すべてには対応できない。
- ・最近では学校と地域のつながりが無い。子供会に加入せず、地域の活動に参加していない保護者にどう周知し、協調していくのかが課題。
- ・地域、保護者、子供の意識が一致しないと、行政が一方向的に進めてもうまくいかないと思う。
- ・学校運営協議会と地域学校協働本部が一体性を欠いていると認識。学校の困りごとを聞いているだけの状況では、地域と学校が win・win の状況とは言えない。地域の参加者にインセンティブはあるのか。
- ・人材がいけないことは否めないが、コーディネーターの役割は重要である。
- ・他校区との連携は可能か。
- ・人の配置や活動費用など懸念され、多少の報酬は出ても実態はボランティアになっていることが課題。
- ・コミュニティの活動について、学校を通じて子供に周知してもらえればメリットとなる。
- ・できることから少しずつやっていくことが大事。

【部活動の地域移行】

- ・費用や活動場所について課題がある。貧富の差で生徒が活動機会を失うことがないようにすべき。
- ・活動時間についても考えなければ、年寄しか指導することができないのではないかな。
- ・今後、クラブチームも学校が借りられるようになるのかな。
- ・指導ではなく、お手伝い程度であれば地域でできることもあると思うが、いじめなどの問題もある中で部活動を地域で担うのは難しい。
- ・研修を行い、資格を与えることで、保護者も安心する。
- ・部活動指導のボランティアを登録制にし、人材バンクを整備するべきではないかな。
- ・部活動は教育の一環であり、教員の負担が大きいならば、自治会に相談するのではなく、文科省と交渉し、教員を増員するなど環境・待遇を改善すべき。
- ・地域移行の受け皿は様々とのことだが、各地域で格差が生じるのではないかな。
- ・部活動の顧問について、適材適所の人事配置を行うことが必要。
- ・沼津市にはクラブチームが少なく、クラブチームを作らないと活性化しない。
- ・地域に部活動を移行することは難しい。40年前、15年前にも同じ動きがあったが、当時、課題として挙げられていることは一つも解決していない。
- ・部活の強豪校もあるので、高校やアスルとの連携を考えるべきではないかな。
- ・地域移行後、中体連はどうなるのかな。
- ・小学生と中学生と一緒に活動したらどうか。
- ・学校外クラブへの参加では勝つことに拘り過ぎる集団にならないかな。教育的レベルを担保できるかな。
- ・部活で培われてきた集団生活の中での学びは、何らかの形で確保する必要がある。
- ・部活動を学校から切り離すことには反対である。部活動は教育の一環であり、そこで社会性や人間関係について学ぶはずである。それを地域に移行したら教育ではなくなってしまふ。本来の部活動に地域の人材が補助をするということなら理解できる。
- ・部活動を指導したくて教員になった方もいると思う。
- ・児童生徒の減少と比べると教員の減少は少ないので、教員が部活動を担えるのではないかな。
- ・教員にかかる負荷に対する対策が必要ではないかな。
- ・進学にメリットがあることが動機やモチベーションになっていた子もいると思う。
- ・任意加入となると、いわゆる帰宅部が多くなることを懸念する保護者の声が届いている。
- ・任意加入に変えることによる影響について、事後の見取りまでしっかりとしてもらいたい。
- ・国の予算も当初の要求と比べて40%程度となった。本当に実現するのかな。
- ・静岡市は拠点校方式で行っている。学校に部活が無くてもその種目ができるように検討してもらいたい。
- ・生徒のためにも、部活動の環境が途中で変わることがないようにしてほしい。